

荒井 恵美

クリスマス・チャリティ・コンサート Vol. II

EMI ARAI Christmas Charity Concert

共演

Pf: 松川 儒 * Vn: 佐久間 大和 * W-Bass: 佐藤 哲也

Drm: 実川 秀一 * Perc: 中山 奈緒

Chor: 神奈川県立生田高校グリークラブ, OB&OG, 有志

2001年 12月15日(土) PM. 2:00

横浜みなとみらい 小ホール

《後援》

ドイツ共和国連邦大使館 / (財)日独協会 / 鎌倉西ロータリークラブ

鎌倉市教育委員会 / TVKテレビ / 横浜エフエム

《主催》

ピアチェーレ・ムジカ

PROGRAM

< I 部 >

たんぽぽ	中田嘉直	作曲
宵待草	多 忠亮	作曲
からたちの花	山田耕筰	作曲
『六つの子供の歌』	中田嘉直	作曲
うばぐるま/鳥/風の子供/たんきぼーんき/ねむの木/おやすみ		
シンドラーのリスト	J・ウィリアムス	作曲
死んだ男の残したものは	武満 徹	作曲
アヴェ・マリア	AVE MARIA	G・カッチーニ 作曲
アメージング・グレース	AMAZING GRACE	黒人霊歌

< II 部 >

～クルト・ヴァイル集・KURT WEIL～

ユーカリ YUKALI

夜勤シフトの相棒に BUDDY ON THE NIGHTSHIFT

スピーク・ロウ SPEAK LOW

ヴァイオリン独奏 「 ? 」

～レナード・バーンスタイン集・LEONARD BERNSTEIN～

『ウェスト・サイド・ストーリー』より

アイ・フィール・プリティ I FEEL PRETTY (何てきれいなもの)

トゥナイト TONIGHT (トゥナイト)

サムウェア SOMEWHERE (どこかに)



PHOTO:T.Yamaguchi

* Message *

人は互いに必要とし合っている
小さな「地球」という星の中で
だから解り合いたい
命と命をつなげて
時と時をつなげて
地球が心の色に染まりますように…

2001・15 Dez. * Emi Arai

ドイツ国際平和村(フリーデンスドルフ)からのメッセージ

第2回目の『クリスマス・チャリティ・コンサート』が開かれると言う知らせは、私を初めドイツ国際平和村の職員一同と、丁度今、平和村に訪れている日本の友人「世界ウルルン」スタッフと東ちづるさんと共に、大きな喜びと驚きであふれるニュースでありました。

コンサートの出演者の皆様、並びに御来場下さいましたお客様に心から厚く御礼申し上げます。

「ウルルン」の4度目の嬉しい訪問にもかかわらず、現在の平和村の空気はやはり重いものがあります。何故ならば、9/11のニューヨークとワシントンでのテロ、その後のアフガニスタンでの戦争の様な攻撃は直接私達に関わってくる事だからです。

アフガニスタンの国際平和村は1989年から活動していますが、ここ20年来の戦争の中で、医学的な分野だけでも約2,000人の子供を受け入れ、ヨーロッパの病院で治療し、彼らに新しい希望を与えることが出来ました。しかし今回のアフガンでの惨事は一般市民と子供達を破壊し尽くしてしまいました。私共は、この戦争の終結後、国際的に広範囲な救援が行われることを祈るだけです。

過日、カブールに連絡を取り、現在平和村で過ごしている124人にのぼるアフガンの子供達の家族が爆撃による悲惨な状態の中でも、何とか無事でいる事を知り、ホッと致しました。私共は目下、12月9日に臨時救済を行なうべくカブールへの特別救援を予定しています。その飛行機には、15トン、100万マルク相当の救援物資(暖かな衣料品や医療品)が積まれます。子供達の運命は、ここ当分の私達の様々な活動が決めていく事になるでしょう。

日本の皆様、本日のコンサートのご成功をお祈りすると共に、皆様の多大なご協力を今一度、心から感謝申し上げます。

そして、私達みんなの願い… “世界が平和でありますように…”

2001年11月26日

フリーデンスドルフ;

ヴォルフガング・メルテンス

FRIEDENSDORF
INTERNATIONAL
Wolfgang Mertens

東 ちづる さんから……

戦争をしている国の人達はどうしようもない人達ではありません。
元は皆、優しい人達でした。
私達と同じ人間なのでありますから。

平和村の子どもたちは、幾度もの手術、治療を受けた後、数年、平和村で過ごします。心身ともにリハビリをするのです。
そこで、国籍、人種、性別、宗教、価値観……等が違う仲間と遊び、ケンカし、仲直りをする生活をし、“日常”を学びます。
そして、母国に帰った時、戦争を非難し、教育、医療の重要性を訴えるのです。実際、アフガニスタンに戻ったアサデウラ君は、銃を捨て、女性の同権を考えています。

人は変わります。いずれ、国も変わります。
平和は祈るものではなく、人の手で作り、育むもの。
あの子たちにガンバレと言わないで下さい。
ガンバルのは戦争をしていない国の私たちです。
同じ地球人として。

今日はお伺いできなくて大変残念です。
世界中の子どもたちが笑顔でクリスマスをおくれますように。
今日のクリスマス・チャリティ・コンサートの大成功をお祈りしています。

2001年12月11日
東 ちづる



PROFILE

荒井 恵美 ソプラノ —EMI ARAI, SOPRANO—

北鎌倉女子学園音楽科、東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。二期会オペラスタジオ研究所修了。東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマコース修了。1990、'91年ドイツ留学。E・ウェルバ、E・ヘフリガー、D・ハーバー、E・ヒレマンの各氏に師事。'92年草津国際音楽フェスティバルの助演。'93年『E・ヘフリガー／クリスマスコンサート』(カザルスホール)に助演。同年、NHK 洋楽オーディション合格。友愛ドイツ歌曲コンクール入選。第5回日本声楽コンクール第1位、並びに田中路子賞受賞。副賞により翌年再び渡欧。'95年第6回日本モーツァルトコンクール第3位。以降多数のコンサートに出演。オペラにおいては『カルメン』(メルセデス)、『魔笛』(ダーム)、『コシ・ファン・トゥッデ』(ドラベラ)等を演ずる。宗教曲においてはヘンデル『メサイア』、モーツァルト『レクイエム』、『ハ短調ミサ』、ベートーベン『ハ長調ミサ』など出演。又ソロサイタルとして、1998年リーダーアーベント『五月の夜に』を開催。以降'99年『日本歌曲の夕べ』、2000年『ウィーンとイタリアの風』と重なる。ソロ活動の傍ら、1999年、ライフワークとして『クリスマス・チャリティ・コンサート』第1回を開く。二期会、横浜シティオペラ、鎌倉音楽クラブ、各会員。 (ホームページ: <http://www5d.biglobe.ne.jp/~piacere/>)

松川 儒 ピアノ —MANABU MATSUKAWA, Piano—

東京芸術大学音楽学部ピアノ科卒業。カールスルーエ国立音楽大学大学院修了。在学中より主として声楽分野でコレペティトゥーア、リート伴奏を手がけ、佐藤光政、岡村龍生、釜淵祐子、各氏をはじめ多くの歌手と共演。又、宮本重門氏演出のオペラにおいて、音楽助手・副指揮を務める。第11回シューマン国際コンクール公式ピアニスト。現在は、ピアノソロ、室内楽、歌曲デュオと幅広く活躍中。NHK-FM、ドイツ WDR-FM、SDR-FM、に録音多数。洗足学園大学講師。

佐久間 大和 ヴァイオリン —YAMATO SAKUMA, Violin—

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。1994年藝科高原音楽祭音楽祭賞を受賞。現在、アポロ室内合奏団コンサートマスター。益田吾郎、石井志津子、山岡耕禪の各氏に師事。

佐藤 哲也 ウッド・ベース —TETSUYA SATO, W.bass—

アン・スクール・オブ・コンテンポラリー・ミュージックにおいて鈴木氏に師事。在学中からプロ入りし、平野昌晃、市村正親など多数のサポートベーシストを務める。[SHAH]のメンバーとしてCDをリリース。著書には「バンドでベースギターが弾きたい」(音楽の友社)がある。ESPミュージカルアカデミー講師。

実川 秀一 ドラム —SHUICHI JITSUKAWA, Drum—

坂田裕、有賀誠門氏に師事。現在まで平野昌晃、山崎ハコ、岩城晃一、TARAKO、シブガキ隊など多数のツアー&レコーディングメンバーとして活躍している。ESPミュージカルアカデミー講師。

中山 奈穂 パーカッション —NAO NAKAYAMA, Perc—

三歳よりピアノ、中学校より打楽器を始める。埼玉県立大宮光陵高校音楽科卒業。現在、東京音楽大学器楽科に在学中。打楽器及びマリンバを菅原淳、岡田真理子、藤本隆文、瀧野香緒里の各氏に師事。

神奈川県立生田高校グリークラブ 及びOB、OG &有志

1977年に設立。今年で24年を迎える。'84年、全国合唱コンクールにて初の関東大会場以来、県代表として数多く関東大会に出場。'90年第9回、'94年第13回安藤為次賞を受賞。尾形敏幸作曲、混声合唱組曲『星振る夜』(1991年)等を委嘱、初演。コンクール、定期演奏会の他、県合唱祭、市合唱祭、養護学校等でのコンサートを行なっている。来年3月23日には第20回定期演奏会を開催。「HP:<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Club/6145/>」

【プログラム・ノート】

【たんぽぽ】 三好達治作詞。「なが咲けば春の風吹き、青き露は丘をこめ、小鳥らは木の間にうたふ…」と、春の息吹きをもたらすたんぽぽへの親愛をうたい、詩の後半では「その春に、私は何度回り逢えるだろう…」と人生の哀感をうたっている。

【宵待草】 なよやかな美人画で有名な画家竹下夢二の詩に多忠亮が23歳頃作曲した

【からたちの花】 北原白秋の詞に、一音符一音主義で詩の抑揚に忠実に、しかも感情を込めて話しかけているような自然な流れの旋律が見事で一誠を風靡した。

【六つの子供の歌】 1947年の作で中田喜直の傑作の一つである。①うげくるま：西條八十作詞。古来の民謡のリズムになぞられながらしんみりと流れるメロディが素晴らしい。②鳥：小川未明作詞。子供が鳥に向かって話しかけている勢いのある作品。③風の子供：竹下夢二作詞。子供の目線で描いた詩は愛らしく親しみやすい作品。④たんぽぽ：山村暮鳥作詞。素朴で少々田舎っぽいリズムとユーモアのある作品。⑤ねむの木：野口雨情作詞。森の神秘的な空気と香りが漂ってくるような趣きのある作品。⑥おやすみ：前の「ねむの木」から間を置かずに演奏される。軽やかな流れの中で、「おやすみ おやすみ～」のモチーフが心地良い。

【シンドラーのリスト】 同名の映画によりヒットしたJ・ウィリアムスの逸品。ヴァイオリンの悲哀で美しい音色が悲しい物語と共に感動的に我々の耳に余韻を残す。

【死んだ男の残したものは】 谷川俊太郎作詞。昭和35年安保戦争の時、武漢徴のところへ谷川が詩を持っていき、市民集会の為に書いてくれと頼んで一夜の内に出来上がった作品。詩は6番まであり、「死んだ男の…」の冒頭が、女、子供、兵士、彼ら歴史と続く。悲しみの中にも現実を見据え、前向きな志が人々に勇気をもたらす。

【アヴェ・マリア】 聖母マリアへの祈りを歌った「アヴェ・マリア」はこの世に何十曲とあるが、今宵はカッチーニの作品。1600年頃にフィレンツェの宮廷で活躍した作曲家。甘美な旋律が時空を超えて広がる。

【アメージング・グレース】 伝承歌とされているこの歌は、「その優しさは、私のような不運な人間にも護ってくれる。自分を見失った時もあったが、今は見つけ出す事が出来た…」っと感謝に溢れている。

【ユーカリ】 プレヒトとの傑作「三文オペラ」等で名高いヴァイルの作ったスロー・タンゴ。「ユーカリ」とは島の名で、大戦争勃発前に世に出たので理想境をアンニュイに唄っている。【夜勤シフトの相棒に】 第2次戦争中に戦意高揚のため、工場などの昼の食事時に作業員を慰問する「ランチ・タイム・フォリーズ」という企画の為に作曲された。【スピーク・ロウ】「ヴィーナスの恋」というミュージカルの中のスロー・ナンバー。「低い声でね、恋を語るときは。私たちの夏は、あまりにも早くおとろえたと。…」

傑作『ウェスト・サイド・ストーリー』は現代版「ロミオとジュリエット」。スラム街を舞台に、ユダヤ人とカトリック教徒の対立を若者たちに設定した。この初演を終えたバーンスタインは“愛と憎しみの対立という深刻な主題に基づいた悲劇であるばかりか、死、人種問題、(中略)…等危険な要素を取り入れたにもかかわらず世に意味を成す作品となった”と語っている。

【アイ・フィール・プリティ】 トニーと初めて出会ったマリアが有頂天になりながら、「何てきれいなもの！ 驚くばかりよ！ 嬉しくて走ったり踊ったりしたいほどだわ、だって素敵で彼に愛されてるから！」と、他の娘たちに呆れられながらも、お構いなしに楽しく歌う。

【トゥナイト】 ダンスパーティで出会った二人はマリアの家へ送り着いても別れづらく、愛を誓う。「…今宵、すべてが始まったのね。あなたに会ったその瞬間、回りの世界が見えなくなった。今宵、あなたしかいない。なんでもなかった世界が、今宵、きらめく星になった！」

【サムウェア】 仲間の決闘を止めに入ったトニーは、謝ってマリアの兄を刺してしまう。それを知ったマリアは、悲しみと絶望に打ちひしがれるが、トニーはマリアに許しを乞い再び愛を誓う。「僕は君を連れて行く、ずっと遠くへ。どこかに僕たちのための自由な土地がきっとある。」それにこたえてマリアが「平和と静けさと大気がどこかにある。安らぎの時がいつか来る」「どこかに新しい生き方を見つけよう。許し方を見つけよう。安らぎの時と地。手を取って、そこへ連れて行こう。いつの日か、どこかに！」と二人で誓い合う。

★ ドイツ国際平和村 ホームページ★

<http://www.friedensdorf.de/>

国際平和村は、ボランティアと寄付により運営されている非営利団体です。詳細ににつきましては、ホームページを御参照下さい。

☆ 寄付口座 ☆

東京三菱銀行 口座番号 2680343

口座名 : Aktion Friedensdorf e.V